しぞ～か 七ぶら 再創造

学んでよし！
楽しんでよし！
住んでよし！

～「出会い」と「つながり」があるまち～

まちづくりの考え方

静岡市は、徳川家康のお膝元であった駿河国の中心地として広く知られています。ここでは、かつて大御所となった家康の庇護のもとで人々が暮らしてきたことから、「のんびり」「ゆったり」とした気質が育ち、また年間を通して温かく過ごしやすい気候が、「おだやか」で「ほのぼの」とした人柄や風土を創り上げてきました。

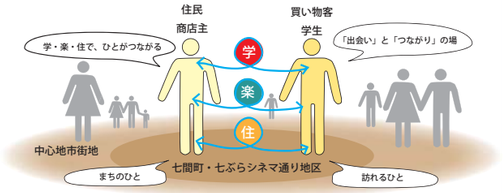
このように、静岡市の特徴的な歴史や気候を背景として定着した気質・人柄・風土は、静岡の人の優しさ、温かさ、ゆとりそのものであり、日常生活の中で「しずおか」を「しぞーか」と柔らかく表現する文化も、その一つの表れであるといえます。

この「しぞーか」の中心市街地の一角にあり、旧東海道筋が通る「七間町・七ぶらシネマ通り地区（以下、「本地区」）」は、かつて城下町として、また交通の要衝地として多くの人の往来による賑わいをみせてきました。

また、人の温かみや心のゆとりといった「しぞーか」ならではの文化に加え、着飾らず気軽にまちを「ぶらぶら」する本地区ならではの文化が、ここで暮らす人々と、ここを訪れる人々との「出会い」と「つながり」をいっそう深め、劇場や映画館などに代表されるように、呉服町・紺屋町・両替町などとは異なる多彩な娯楽・文化を楽しみ、賑わうまちとして発展を遂げてきました。

このような中、本地区のシンボルである映画館の移転は、ここに暮らす人々があらためて自分たちのまちを見つめ直すとともに、これからの時代にふさわしい新しいまちとして再創造し、育てていく大きなチャンスです。

新しいまちづくりにあたっては、本地区の中心市街地の中での位置づけ・役割を引き継ぎつつ、人々の優しさ、温かさ、ゆとりとして定着した「しぞーか」文化をこれからも大切にし、伝え続けていくため、「学（学び）」「楽（楽しみ）」「住（まちなか居住）」の新たな都市機能を導入し、これまで以上に「人と人が出会い、人と地域・まちがつながる」まちづくりを行います。

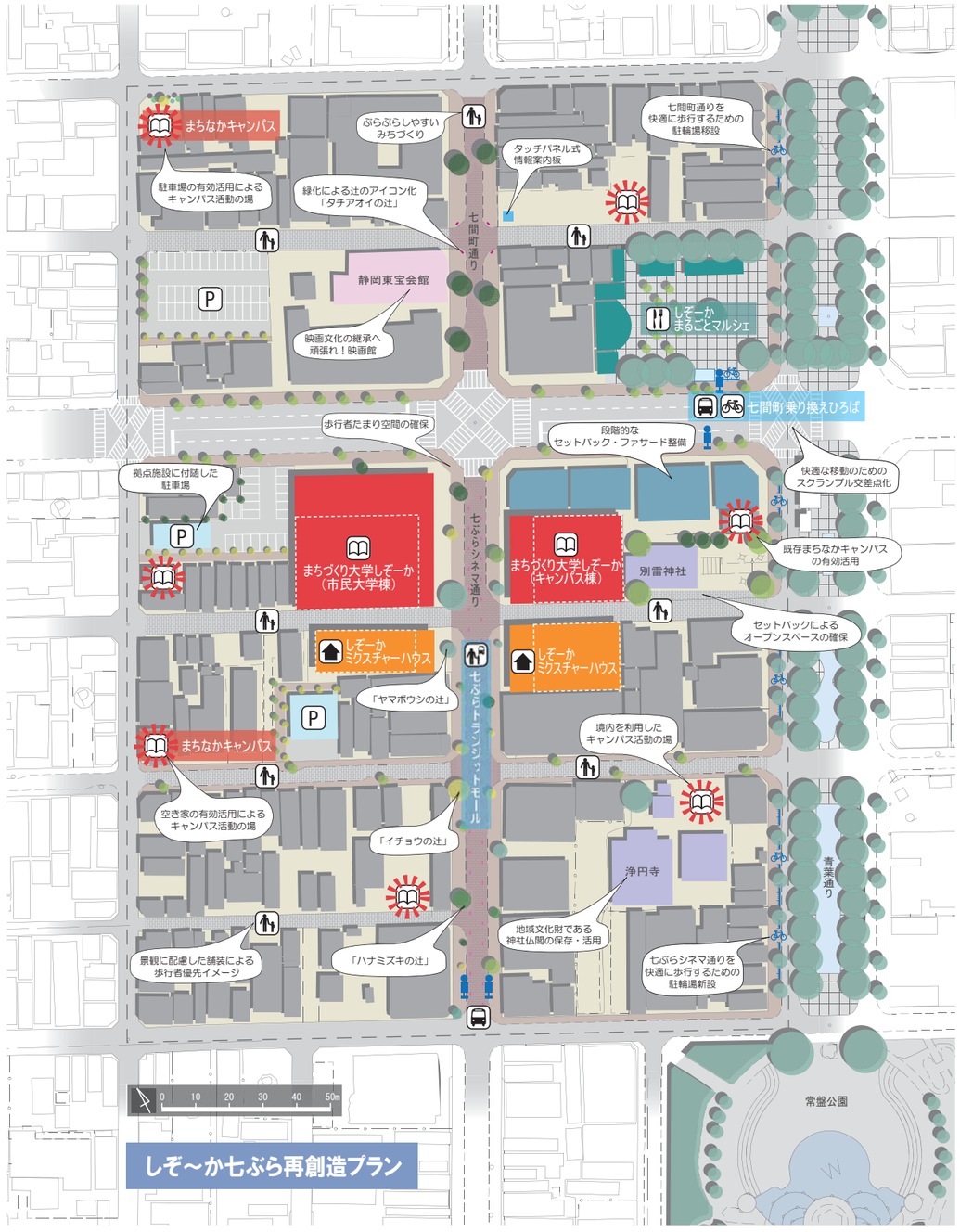


人がつながり　地域がつながり　まちがつながる

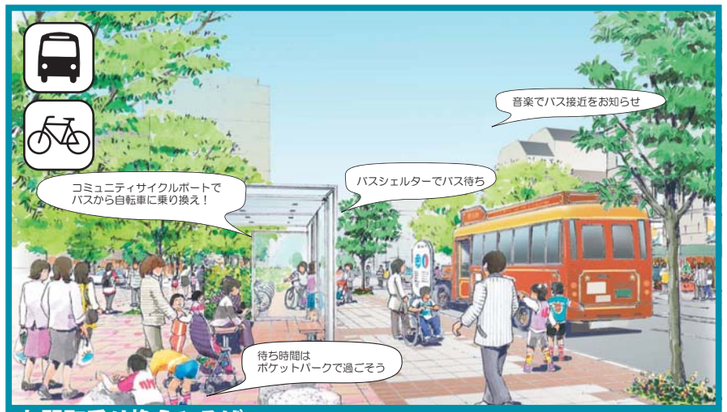
「出会い」と「つながり」があり、将来にわたって本地区を含む中心市街地全体が賑わい、発展し続けることができるまちづくりを行います。

しぞーかまるごとマルシェ

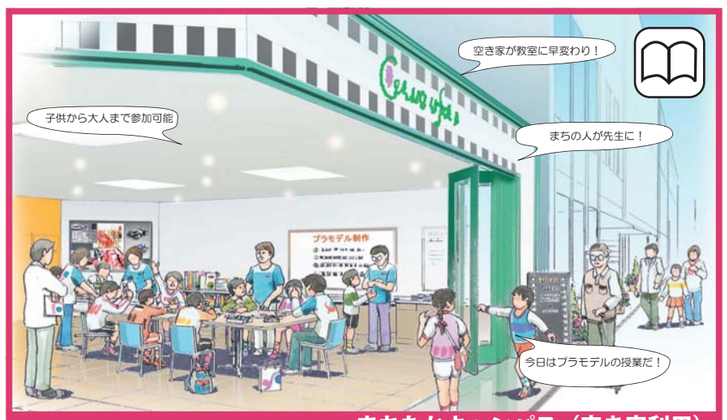
まちづくり大学しぞーか（市民大学棟）



しぞ～か七ぶら再創造プラン



七間町乗り換えひろば



まちなかキャンパス（空き家利用）

七ぶらトランジットモール（休日）

まちなかキャンパス（空地利用）

しぞーかミクスチャーハウス (屋上菜園)